

三重支店が一方的に 紀伊長島駅の乗務員配置解消を説明！

9月20日、三重支店における業務委員会において「紀伊長島駅の体制変更について」を突如、組合に説明してきました。その内容は、紀伊長島駅の乗務員配置の解消、実施は平成24年3月というものです。乗務員配置の解消は、組合員の生活基盤、労働条件の変更、安全問題などにかかわる重要な問題です。労働組合との協議を行わず、一方的に行うことは許されないことです。名松線家城～伊勢奥津間の廃止も時も、一方的でした。

今回の業務委員会の開催を組合に連絡してきたのは9月20日でした。しかし、内容は聞いても答えず、業務委員会で初めて、乗務員配置の解消を知らされたのです。このような労働組合を軽視する姿勢は断じて認めることはできません。

遠距離通勤・転居を強いる乗務員配置解消は認められない！

紀伊長島駅の乗務員配置の解消は、遠く離れた伊勢運輸区（多気町）や亀山運輸区（亀山市）への転勤を余儀なくされます。場合によっては名古屋地区への転勤の可能性も考えられます。業務委員会で「東海鉄事への転出もあるのか」という質問に、「人事については会社が責任を持って行う」と、東海鉄事への転出を否定しませんでした。

紀勢線は列車本数も少なく、熊野市や尾鷲市在住の組合員・社員は遠距離自動車通勤を強いられます。長時間の自動車通勤は、心身に疲労が蓄積し通勤障害の原因になります。本来業務に障害となり安全上極めて問題です。今回の乗務員配置の解消に伴う転勤は、転居や遠距離通勤が避けられず、組合員・社員の生活基盤や生活設計に大きな影響を与えます。

JR東海ユニオン組合員の皆さん！

**通勤障害、安全確保・業務に支障をきたす、
紀伊長島駅の乗務員配置解消に共に反対しましょう！**